

マグカルシアター参加公演

A CALL TO BEAR ARMS

A CALL TO

BEAR

「一匹も生かすな——」

ARMS

作・演出・出演：山田カイル

原劇場
Allergen Theatre

2026.3.13(Fri) - 3.15(Sun)

会場：神奈川県立青少年センター スタジオHIKARI

演劇作家の山田カイルが代表をつとめる演劇団体。近年では特に、近世以前の資料に取材し、遠く忘れ去られた歴史や物語の翻案を通して、現代社会の問題を抒情性とユーモアをもって描く。

A CALL TO BEAR ARMSとは

山田カイルが2025年夏から展開する、熊についてのリサーチプロジェクト。オンラインデータベース上にマニフェスト、詩、熊にまつわる様々な対話の記録などをアーカイブし、公開している。本公演は、そのリサーチをもとにした一つの上演である。



DATABASE

「熊」

について語るときに、
我々が語ること。

このパフォーマンスは、一言でいうと、
それについての作品である。

熊は不可思議な生物である。二足歩行をする。雑食である。
冬眠をする。掌の一振りで鮭を川から弾き出し、鹿や人間の頭蓋骨
なら粉々にしてしまう。世界史の比較的最近まで、熊とは、特に狩猟採集を
生活の中心に据えた人々にとっては、敵うはずもない競合相手であり、「人間の上位
互換」であったはずだ。世界中の文化がそこに脅威と神聖を見出したのは、自然なこと
であるように思われる。大型の猫科がいない日本列島などでは、まごう事なき野生の王者である。

アメリカでは、銃火器が広く流通することで、熊は神から動物になった。ヨーロッパでは現代に至るまで何度も、
その神威を調伏した絶対的な王権を演出するために、ファシストたちがその図像を用いてきた。

大統領のあだ名をつけられ、眠る赤子の友となる。中国に住む肉食を嫌う種は、その珍しさから外交の道具となる。
時にはペルーの暗い森から来た移民となって、人々の良心を問う。

自衛隊に何をしてほしいのか。なぜ、みんな駆除した熊をしきりに食べたがるのか。
なぜ誰も実際には食べないのか。

熊について語ろう。
それは、私たちについて語ることであるはずだから。

Schedule 2026

3.13 Fri 19:00 -

3.14 Sat 14:00 -

3.15 Sun 14:00 -

*受付開始・開場は開演の30分前

*上演時間60分を予定

Access

神奈川県立青少年センター スタジオHIKARI

〒220-0044 神奈川県横浜市西区紅葉ヶ丘9-1

- JR根岸線「桜木町駅」北改札西口から 徒歩約8分
- 横浜市営地下鉄線「桜木町駅」南1出口から 徒歩約10分
- 京浜急行線「日ノ出町駅」徒歩約13分
- みなとみらい線「みなとみらい駅」
ランドマーク・クイーンズスクエア方面改札 徒歩約20分

Ticket

一般:3500円

U25:3000円

応援*:5000円

- 全席自由席・税込
- 当日券はそれぞれ500円増

* 抗原劇場の活動を応援していただけるチケットです。
差額は活動費として大切に使用させていただきます。

ご予約はGoogle formsから



Google Forms

Map

